

玉川教会たより

NO. 489

2017年1月15日

町田市玉川学園4-5-32

Tel. 042-732-9321

FAX. 042-732-9337

Eメール chiyosi514@yahoo.co.jp

『バラムの迷い』 民数記24：12～19、マタイ福音書2：1～12

▼民数記は、その題名の通りに、イスラエル民族の部族・氏族の名前の一覧を上げ、また、神殿建物とお祭りについての詳細な規定を述べることに、かなりの紙数を割いています。私たちには、あまり関心の持てない、正直、退屈な文章が綴られています。しかし、その中で魔法使いバラムの逸話だけは例外的で、不思議で教訓的な物語が展開されます。

バラムは、簡単に言えば占い師です。彼は、その評判を聞きつけたモアブの王に招かれました。イスラエルを呪うためにです。初めは気乗りがしなかったのですが、報酬に動かされて、ついに、これに応じました。

▼招かれて行く途中、ろばが三度にわたり立ち止まり、梃子でも動こうとせず、道を変えざるを得ませんでした。それでも鞭を振るってろばを進ませようとする、このろばが口をきいて、バラムと不思議な問答をします。

22章27節以下を引用します。「ろばは主の使を見てバラムの下に伏した。そこでバラムは怒りを発し、つえでろばを打った。すると、主が、ろばの口を開かれたので、ろばはバラムにむかって言った、「わたしがあなたに何をしたというのですか。あなたは三度もわたしを打ったのです」。

バラムは、ろばに言った、「お前がわたしを侮ったからだ。わたしの手につるぎがあれば、いま、お前を殺してしまうのだが」。ろばはまたバラムに言った、「わたしはあなたが、きょうまで長いあいだ乗られたろばではありませんか。わたしはいつでも、あなたにこのようにしたでしょうか」。バラムは言った、「いや、しなかった」。このとき主がバラムの目を開かれたので、彼は主の使が手に抜き身のつるぎをもって、道に立ちふさがっているのを見て、頭を垂れてひれ伏した。」

▼ろばは、愚鈍・頑固を象徴する動物と考えられています。しかし、ろばの背に乗った魔法使いバラムの方が、もっと愚鈍で頑固です。それは、金の欲に目が眩んでいるからです。

この不思議を体験しては、バラムといえどもモアブ王の意に反し、イスラエルを呪わず、かえってその勝利とその敵の滅亡を預言せざるを得ませんでした。その預言の内容が、24章です。

さて、この後、バラムは結局、利に迷い、モアブの女性たちを用いて、イスラエル人たちをバルの祭儀に誘い、イスラエルに災害を及ぼしました。バラムはメディアン人と共に殺害されます。この故事から「バラムの迷い」(ユダ11節)、「バラムの教え」(黙2：14)の表現が生じました。

▼「バラムの迷い」こそ、人間の現実を言い表しています。人間は、正義と悪との区別が出来ないのではありません。神の戒めを知らないのではありません。神の言葉を知らないのではありません。

… 2頁に続く



… 1頁からの続き

自分の欲のために、これを歪め、結局無にし、そして結果、滅びるのです。ろばよりも愚かで、ろばよりも頑固なのが人間です。そして、その愚かさ、頑固さの背景にあるものは、欲望なのです。

▼魔法使いバラムとマタイ福音書の博士たちには、幾つもの類似点があります。口語訳聖書では、博士と訳されていますが、新共同訳聖書では「占星術の学者」となっています。ギリシャ語原文はマジ、ペルシャやバビロニアで星占いをする者がこのように呼ばれていました。英語のマジシャンの語源です。

▼マタイ福音書、2章2節と11節。

2節、「ユダヤ人の王としてお生まれになったかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拝みにきました」。

11節、「そして、家には行って、母マリヤのそばにいる幼な子に会い、ひれ伏して拝み、また、宝の箱をあけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげた」。

博士たちは、礼拝することを目的として、長い旅をして来たのです。また、自分の宝物を捧げることを目的として、長い旅をして来ました。彼らは、長い旅の果てに、何を得たのか、物質的には、何も得られません。出世した訳でもありません。お金や出世に結びつくような、重要な新知識を得たとも言えません。

しかし、彼らは、「その星を見て、非常な喜びにあふれた。」のです。

一方のバラムについては、既に見た通りです。金の欲に目が眩んで、ついには、滅びるのです。余人には見ることの出来ないものを見、余人には聞くことの出来ないものを聞くという、特別な能力を持ちながら、欲に目が眩んで、滅びるのです。

▼バラムの預言の成就するのは、17節、「わたしは彼を見る、しかし今ではない。わたしは彼を望み見る、しかし近くではない」。遙か未来のことです。ユダヤに救世主が誕生するのは、バラムの時代から、1000年以上も後のことです。

そして、時代の隔たり以上に、内容の隔たりがあります。

▼救世主は、確かにバラムの預言の通りに、ユダヤの民を救うべく登場します。マタイ1章21節、「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。

しかし、救いとは、必ずしも、他の民族をうち破り支配するという意味ではありませんでした。「彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」。この表現に既に暗示されているように、ユダヤの民の悔い改めを説くものでした。

星の三博士



▼彼は、ルカ福音書に拠れば、大勢の神の軍隊を伴って、誕生します。しかし、この軍隊は、武器を持たず、讃美歌を歌うのです。

ルカ福音書2章13節以下。「すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

14:「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」。

ここでも、讃美の礼拝が持たれるのです。平和の歌が歌われるのです。